

東京、2022年5月19日

"サンディーノ将軍とニカラグア国民の 主権を守るための闘い"

在日ニカラグア共和国臨時代理大使
サンディ・ダビラ

1927年から1933年にかけて、米国の不当な占領軍と戦い、これを打ち破ったニカラグアの国民的英雄、アウグスト・C・サンディーノ将軍の生誕127周年記念日に。

目的：「自由な男女の将軍」アウグスト・C・サンディーノの生誕127周年に際して、ニカラグアの民族主権と自決を守り、貧困との闘いにおけるニカラグアの社会的成果と進歩に焦点を当てる

目次

1. サンディーノ将軍の略歴
2. サンディーノ将軍の政治思想の有効性
3. ニカラグアの社会的達成と進歩、2007年～2021年。
4. ニカラグアの民族主権の擁護

1. サンディーノ将軍の略歴

1 アウグスト・ニコラス・カルデロン・サンディーノは、1895年5月18日にマサヤ県のニキノホモで生まれました。彼は、裕福なコーヒー栽培者であるグレゴリオ・サンディーノと、彼の父の農園で働いていた先住民の使用人マルガリータ・カルデロンの息子でした。

2 サンディーノ将軍は、幼い頃から屈辱と貧困に苦しみ、そのことが彼に深い影響を与えるいくつかの出来事を経験させ、彼の階級意識と飽くなき知識欲を目覚めさせ、ラテンアメリカにおける当時のさまざまな思想的、政治的表現について広く深い知識を身につけることができました。

3 サンディーノ将軍に最も関係の深い出来事は、次の通りです。

a 母親が借金のかたに逮捕され、流産してしまいました。まだ9歳の彼は、誰の手も借りず、牢獄の中で彼女を助けなければなりませんでした¹。

b 1912年10月4日、ベンハミン・セレドン将軍が暗殺され、遺体は馬に引きずられました。その時サンディーノは17歳でした²。後にサンディーノ将軍は、「セレドンの死は、アメリカの干渉行為に直面した我々の国情を理解する鍵を与えてくれた。そのため、我々が従事している戦争は、その継続であると考え」と述べています。

c 1926年サンディーノは、メキシコに滞在中、友人たちにニカラグアに戻って自分の党と一緒に戦いたいという気持ちを表明しました。彼は、「ニカラグア人はみんな売国奴だ、ここにいれば大丈夫だ！」³と、帰らないよう勧められました。

作家ホセ・ロマンの著書『呪われた国』に登場するサンディーノ将軍の言葉によれば、「...私の人生の進路を変えたが、今度は画期的な方法で変えた」のでした。

4 サンディーノ将軍は知識人でもなければ、なんらかの政党の指導者を気取ったわけでもありません。しかし、彼の階級意識と当時のこの地域の政治的出来事についての優れた分析能力のおかげで、私たちは、ラテンアメリカの人民と世界中の闘争中の他の人民を擁護し連帯するという堅固で誠実な立場からのサンディーノの考えと行動を知り、理解することができるのです。

5 「ヤンキーは我々人民の最悪の敵である。我々が、愛国心に駆られ誠実に団結の推進を探求しているのを見ると、我々のやり残したところを深くかき乱す。そのために我々の間に憎しみが生まれ、我々はバラバラで弱いままにいるのだ。したがって我々を植民地にしやすいのである」と将軍は考え、述べています⁴。

6 そして、彼の中には、平和を愛しながらも、武器を手にニカラグアとラテンアメリカの主権を守る覚悟を常に持っているという特徴的な逆説が生まれてい

¹ Román, José, Libro Maldito País. Primera Edición, año 2007.

² Historia de Nicaragua. Augusto C. Sandino, General de Hombres y Mujeres Libres. Unidad II, La Gaceta Sandinista.

³ José Román, Maldito País. Primera Edición, año 2007.

⁴ Gregorio Selser, Sandino, General de Hombres Libres.

ました。

そして「・・・ヤンキーは招かれた客としてなら、我々のラテンアメリカに来ることができるだけで⁵、決して彼らになりたがっているような主人や領主にはなれない。殺人者の侵略者が征服して育てようとするラテンアメリカの国に、私と私の軍隊がいてもおかしくはないだろう」と述べました。

7 こうして 1927 年 5 月 12 日、サンディーノ将軍は、全島の地方当局にあてた通達で、1 月にコリントに上陸したアメリカの干渉部隊に対する闘争を継続する決意を表明しました。

8 そして、最後の 2 年間（1932 年と 1933 年）サンディーノは、違憲である国家警備隊の解散と、ラス・セゴビアスの開発計画の制度化という 2 つの基本目標を含む和平交渉に集中しました。

また、政治家の「悪党の一団」については警戒していましたが、和平協定で解散することを提案していた最悪の敵である国家警備隊の首領については警戒してはいませんでした⁶。ソモサは、1934 年 2 月 21 日、マナグアのアメリカ大使館の指示でサンディーノ将軍を暗殺することを命じました。

・ サンディーノ将軍の政治思想の有効性

9 その例は、1927 年 7 月 1 日、サンディーノ将軍は、サン・アルビノの山から、ニカラグア人民、中南米の人民に向けた最初の宣言を発表したことに見られます。

"サン・アルビノ宣言"は、サンディニスタ思想の基本的なイデオロギーの一つであり、1927 年から 1933 年にかけてサンディーノ将軍が行ったゲリラ戦を支えた原則を明らかにするものです。とりわけ、反帝国主義、反寡頭制の政治的・軍事的宣言であり、民族解放と社会的解放を約束し、ニカラグアの自決、自由、社会正義のための闘いの開始の象徴となっています⁷。

10 その中でサンディーノ将軍は、祖国と放置された人々への愛を表明するとと

⁵ Ibidem.

⁶ Aldo Díaz Lacayo. Sandino y Darío. Simposio Darío-Sandino Organizado por la Coordinación Ejecutiva de la Biblioteca del Banco Central de Nicaragua, lunes 16 de febrero de 2009.

⁷ Diario Barricada. Manifiesto de San Albino.
<https://diariobarricada.com/manifiesto-de-san-albino/>

もに、保守的寡頭制政治の売国的行動とアメリカのニカラグア内政への干渉主義に対する精力的な拒否を表明しています。

サンディーノ将軍は、1927年5月4日にホセ・マリア・モンカダ・タピア将軍とアメリカのヘンリー・スティンプソン戦争長官との間で締結されたエスピノ・ネグロ協定への署名を拒否した数日後にサン・アルビノ宣言を書きました。その宣言においてサンディーノは、「自由な祖国か死か！」という戦いの叫びを表しています。

11 今日、サンディーノ将軍のその宣言に反映されている、尊厳ある反帝国主義の姿勢は、民族主権を守る上で、100年前と同様に有効です。なぜなら、敵は干渉主義戦略を変えても、本質は依然として同じだからです。

このサンディーノ将軍の政治理念は、ダニエル・オルテガ司令官とロサリオ・ムリージョ副大統領の指導のもと、サンディニスタ民族解放戦線と和解・国民団結政府によって受け継がれ、導入されています。

12 最終的には、1933年1月に追放されたヤンキーの侵略軍と、アウグスト・セサル・サンディーノが率いる民族主権防衛ゲリラ軍(EDSN)が支援するニカラグア政府支持者たちとの約7年にわたる武装闘争の末、1933年2月2日にニカラグアで和平協定が調印され、武力紛争が終了しました。

前述したように、翌年サンディーノ将軍は、裏切られ暗殺されたのでした。

ニカラグアの社会的成果と進歩、2007年～2021年⁸。

13 サンディニスタ民族解放戦線(FSLN)はその歴史を通じて、ニカラグアの主権、独立、自決を守り、ニカラグア人民の人道的発展のために貧困と闘ってきました。

FSLNは「団結、ニカラグアの勝利！」同盟を組織し、司令官ダニエル・オルテガ・サアベドラ大統領と同志ロサリオ・ムリージョ・ザンプラナ副大統領の指導のもと、「国民大統領！」のコンセプトで和解・国民団結政府(GRUN)を形成しました。

14 和解・国民団結政府は、2007年以来、16年にわたる新自由主義政権の間、

⁸ Plan Nacional de Lucha contra la Pobreza por el Desarrollo Humano Sostenible 2021-2026 y Logros Históricos del GRUN 2007-2020

ニカラグアの歴史の中で保守・リベラルの寡頭制政治家により疎外されてきた弱者や庇護されない人々を中心に、その権利回復に取り組んでいます。

また、この政府は、市民の安全の強化にも努めており、その結果、ニカラグアは、近隣諸国の生活を非常に困難にしている麻薬カルテルや無法者集団マラの犠牲にはなっておりません。それどころか、ニカラグアは、こうした地域の災いに対する防波堤となっているのです。

15 ニカラグアは、2018年のクーデター未遂、COVID-19、COVID-19に伴う各国でのロックダウンの長期化に伴う世界恐慌、2週間の間に北カリブ海沿岸の自治区を襲ったカテゴリ-4と5のハリケーンETAとIOTAの影響と対峙しながらも、社会の安定を達成しました。

そこで、2007年から2020年にかけて、ニカラグアは「国民大統領」のコンセプトの下、2021-2026年国家計画の基礎となる和解・国民団結政府の推進により、歴史的な成果を築きました。

a- 2007年から2020年までの貧困と不平等の削減

16 ニカラグアは2011年から2017年まで年率5%のGDP成長を持続した。中南米地域ではドミニカ共和国とパナマのみが、それを上回っていました。

また、一般的な貧困と極貧の削減も大きく進み、一般的な貧困は2006年の48.3%から2017年には24.9%に、極貧は2006年の17%から2017年には6.9%に減少しています。

17 同様に、和解・国民団結政府（GRUN）は恒常的に雇用を促進し、2006年にニカラグア社会保障庁（INSS）の被保険者数は420,316人だったが、2020年には被保険者数は713,670人に達し、59%の増加となりました。

クーデター未遂前の2017年12月、ニカラグア社会保障庁（INSS）加盟企業は914,196社となり、我が国の歴史的な記録となりました。しかし、クーデター未遂の結果、数千の中小企業が閉鎖せざるを得ず、約10万人の労働者が職を失いました。それは、COVID-19の流行や世界大恐慌により、多くの国で長期のロックダウンがあり状況が深刻化した結果でした。

しかし、2020年8月以降、被保険者数が回復する過程が始まりました。

18 また、2007年から2020年にかけて、実質最低賃金が198%以上引き上げられたことも、貧困撲滅への大きな成果でした。

医療と教育の無料が保障されました。これは、医療と教育に関する憲法上の権利の実現であり、以前の新自由主義諸政府が適用していた費用の削減を計算すると、5人家族で年間845米ドルの節約になります。

19 「2010年に導入されたキューバの協力を受けた障害者への支援」Todos con voz、幼児介護のための省庁連携の強化計画「Amor para los más chiquitos/as」、 「Operación Milagro」(キューバ人医師による視力回復無料手術)など、象徴的で連帯感のあるプログラムを実施するために、サンディニスタ政府は、一般予算を増額し、住民の基本的な人権を尊重するというサンディニスタ戦線の神聖な約束を明白にしました。

政府は、2007年に開始された家族・地域住民保健モデル(MOSAFC)のもと、高い予算投資(2020年に4億6,860万米ドル、2006年には1億1,190万米ドルで、4倍以上に相当)が投じられました。

20 家族・地域住民保健モデル(MOSAFC)は、家族と個人に焦点を当て、健康に影響を与える可能性のある要因の監視と評価を指導しています。サービスのネットワークとインフラを強化し、住民のプロモーション、予防、教育、ケア、リハビリテーションを強力に指導しています。

18の新しい病院が建設され、6が建設中、8が設計中です。母子死亡率、乳幼児死亡率、児童の栄養失調は減少しています。医療従事者は、医師、看護師、技師、助手など約15,000人増加し、医師だけでも3,300人以上増えました。現在では、143の医療センター、1,333の医療職、178の産科施設、66の移動診療所、280の児童養育所(CDI)があります。分子生物学研究所があり、1200万本のインフルエンザワクチンを製造することができます。医薬品の製造工場もあります。

小国であるニカラグアが、十分な経済的資源がないにもかかわらず、COVID-19の大流行に対して優れた管理を行い、国民への検疫封鎖を実施しなかったことで、経済の麻痺を回避できたのは、この健康モデルや戦略のおかげであると思います。

ニカラグアの家庭へのもう一つの大きな貢献は、都市公共交通の補助金で、マナグアの運賃は2.50コルドバで維持され、首都の5人家族で年間580米ドルの補助を受けたことになります。

21 最後に、食品クーポン券(飢餓ゼロ)」と高利ゼロ計画を普及する、女性を

通じた貧困家庭対策があります。飢餓ゼロは、295 の協同組合の農民の家庭のイニシアチブによって実現されました。

飢餓ゼロと高利ゼロ計画は、単に物資を提供するだけでなく、生産能力の向上に効果的に貢献するために、技術的、管理的、組織的な問題に関して主人公を訓練するという補完的役割ももっています。

都市部では、「高利ゼロ計画」は年利 5% の小規模融資モデルで構成され、812,654 人の女性が 41,297 の連帯グループに組織されています。2021 年までに、16 万人の加盟者の企業のために 5,930 万米ドルがという金額が計上されました。

22 その他の成果としては、前に述べましたあらゆるレベルの普遍的かつ無償の教育、すべての人への無償の医療、さらに電力網の拡張、飲料水の供給と衛生、道路の改善、法的保障、主体的かつ参加型の若者、子供と青年の権利回復、市民の安全の向上、リスク管理、母なる大地の国民的擁護、科学技術と環境保護、2007 年から 2020 年までの貧困と格差の削減、社会・キリスト教・連帯ベースの新しいモデルの導入が挙げられます。

b- 新しい社会的、キリスト教的、連帯的モデル。

23 この新しいモデルは、国家計画 2021-2026 の戦略に表されており、それは、すべての活動を総合的な方法で貧困との闘いに向け、社会の包摂を進めるとともに、不平等を削減し、新しい社会的、キリスト教的、連帯的モデルを構築することです。

環境と天然資源は、わが国の農牧畜業と主に第一次産業の経済の基盤です。最貧困層の人々は、その活動において自然と最も直接的に接しており、環境が悪化し、天然資源が持続可能な方法で運用されなければ、貧困を削減することはできません。

24 科学技術は、生産、生産性、経済の付加価値を高め、気候変動による損失や損害の緩和、適応、克服を支援し、貧困削減に貢献する要因である乾燥地帯の生物多様性の強化や砂漠化進行の停止に優先的に使用されます。

このように、「人間開発のための貧困撲滅国家計画 2021-2026」の基本軸は、1) 貧困削減、2) 環境・天然資源、3) 科学技術の 3 つです。

4 . ニカラグアの民族主権を守る

25 冒頭で述べたように、敵の干渉主義戦略は変わっても、敵の本質は変わりません。この意味で、ニカラグアの人民は、司令官ダニエル・オルテガ大統領が様々な公的行為で繰り返し述べているように、その歴史を通じて、主権と自決を守るために粘り強く戦ってきました。

我々は、征服（1523-1542）の時代から、ディリアンゲン酋長とニカラオ酋長の先住民の抵抗によってこうした闘争を続けてきたのでした。

時の経過の中で、われわれの主権と自決を守るために様々な闘いを行った他の英雄たち（アンドレス・カストロ、ホセ・ドロレス・エストラーダ将軍、ベンハミン・セレドン、カルロス・フォンセカ）が現れ、それぞれは、それぞれの長所を發揮しました。中でもサンディーノ将軍の反帝国主義の闘いは、1933年にわずか29人でニカラグア領からアメリカ海兵隊を追い出すのに成功し、際立ったものでした。

26 近年になると、2018年4月から7月にかけて、ニカラグア国民は、NGOを装い、組織犯罪と関係をもち、海外から資金を調達した政治団体によって、誘拐、拷問、恐喝、暗殺、略奪、公道妨害、公共・民間施設の破壊・焼き討ちを行うクーデター未遂にさらされました。

この失敗したクーデターの試み（IFGE）は、平和、安全、安定、経済を打倒する試みでした。このテロ行為と犯罪により、198人が死亡、うち22人が国家警察隊員（男性20人、女性2人）、1,240人が負傷、うち401人が国家警察隊員で、銃器による負傷を負いました。

この状況に直面し、ニカラグア公共省は調査を実施し、マネーロンダリング、詐欺、反逆、扇動的陰謀の犯罪に関連し、ダニエル・オルテガ・サーベドラ大統領司令官の政府転覆を目的として、アメリカ合衆国国際開発庁 USAID、全米民主主義基金 NED、国際共和研究所 IRI、その他の米国政府機関を通じて米国から数千万ドルを受け取っていた関係者や国家組織に対する証拠を発見しました。

一方、昨年11月7日、ニカラグアは、ニカラグア共和国政治憲法と選挙法331条（男女平等・公平の原則）に基づき、選挙日程の活動番号36と37に準拠し、大統領職と副大統領職の模範的な一般選挙手続を展開しました。2021年の総選挙では、3,106の投票所（CV）と13,459の投票所（JRV）が設置されました。

今回の総選挙では、65.26%という多くの市民が参加し、2022年から2027年のニカラグア共和国大統領と副大統領に、ホセ・ダニエル・オルテガ・サーベドラ司令官とロサリオ・ムリージョ・ザンブラナ同志が選出されました。同様に、国会議員も男女合わせて91人が選出されました。

この選挙過程には、27カ国⁹から232人の選挙監視員と、最高選挙評議会(CSE)から認定された600人のニカラグア人およびその他のジャーナリストが参加しました。

各大統領・副大統領候補の有効得票数は次のように配分されました。

1. サンディニスタ民族解放戦線(FSLN)(2,093,834票)
2. 立憲自由党(PLC)(395,406票)
3. ニカラグア・キリスト教政策党(CCN)(89,853票)
4. ニカラグア自由連合(ALN)(85,711票)
5. 独立自由党(PLI)(46,510票)
6. 共和国のための同盟(APRE)(48,429票)

この選挙は、大きな事件もなく、平穏無事に行われました。私たちは、ニカラグアの選挙法を尊重する枠組みの中で組織された民主的な選挙プロセスであったと自負しています。

27 ところで、2018年以前から、帝国主義が、アメリカの衛星国や米州機構(OAS)などの国際機関の裏切り者、売国奴と結託して、ニカラグアの憲法秩序を破壊しようとして動いていたことは、明白な事実です。

後者については、OASが米国政府国務省の干渉と支配の政治的道具とみなされるため、2021年11月18日、ニカラグアは、デニス・モンカダ・コリンドレス外務大臣を通じて、ルイス・アルマグロ・レメス OAS 事務総長宛の公式文書により OAS 憲章を糾弾することを決定した点を強調したいと思います。

この悪名高い組織の事務総長であるルイス・アルマグロ・レメスは、わが国の内部問題への干渉行為を繰り返しました。彼は、クーデター未遂を認めないこと

⁹選挙管理人の派遣国・地域は次の通り。アブハジア、ドイツ。アルゼンチン、ベルギー、ブラジル、カナダ、チリ、コロンビア、コスタリカ、キューバ、スペイン、米国、フランス、グアテマラ、ホンジュラス、イタリア、メキシコ、南オセチア、パナマ、パラグアイ、ペルー、プエルトリコ、英国、ドミニカ共和国、ロシア、ウルグアイ、ベネズエラ。

から、ニカラグアの問題を OAS で取り扱うよう繰り返し呼びかけ、2022 年 11 月 7 日の総選挙を不正選挙だと非難して、司令官ダニエル・オルテガ大統領とロサリオ・ムリージョ副大統領が圧勝したことを認めていません。

この我々の決定は、立法権、司法権、選挙権およびニカラグア国民自身の主権に基づく宣言を基礎としているのです。

28 この非難において、ニカラグアは、この日付をもって、この怪物の欺瞞的なメカニズムである常任理事会、委員会や、会議や、米州サミットのすべてに参加することをやめ、ニカラグア国家と OAS のつながりを絶つと述べ、条約法に関するウィーン条約第 67 条と、第 143 条に基づき、この組織からニカラグアの決定的な撤退と脱退の手続きを開始しました。

29 一方、4 月 24 日、ニカラグアは、OAS が植民地的行政の道具であり、我々がカリブ海とアメリカの主権連合をいかなるときにでも代表しておらず、それどころか、ヤンキー帝国主義の道具であるとして、ニカラグアから OAS 事務所を追放する決定を下しました。

OAS は、国際法と独立を侵害し、干渉と侵略を組織・促進し、さまざまな形式と様式でクーデターを正当化し、屈辱と屈従と降伏によって、我々の民族主権を崩壊させようと希望していますが、もちろんそれは達成されていません。

つまり、尊厳の行為として、またニカラグア国民の主権と自決を守るために、ニカラグア政府は OAS 憲章を非難しただけでなく、そのニカラグア代表であるオルランド・タルデンシージャ、イバン・ララ、マイケル・キャンベル同志の信任状を撤回し、このその名にふさわしくない OAS 機関のどの組織にも我々は関係しないことを再確認したのでした。その結果、この悪名高い組織は、我が国にも事務所を持たないことになり、現地事務所は閉鎖されました。

30 国内外のメディアに配布された公式文書で、ニカラグアは、「誰の植民地でもない、したがって植民地省には属さない」と主張しました。我々が絶対的な尊厳をもって直ちに撤退したこの耐え難い機関を糾弾し、脱退することによって、我々は直ちに脱退し、英雄的なキューバ、ベネズエラ、ボリビア、そして勇敢に、正義と人民の権利、主権、尊厳と平和を求めてこれまで戦ってきた、そして現在戦っている、我々を支持する人民への尊敬、愛情、感謝を表明します。

31 ヤンキー国務省の職員の度重なる不遜な態度から、我々は解放されたと感じ

ています。彼らは、従属、従僕、降伏、老衰、退廃を表しています。

この祝福された永遠に自由なニカラグアの英雄的国民は、我々の自由な男性と女性の将軍であるアウグスト・ニコラス・サンディーノが、この自由で主権ある祖国からヤンキーの海兵隊を破り追い出したように、忌まわしい米州機構 OAS を追放します。

32 サンディーノ将軍の伝記や、ニカラグア人民の主権を守るための闘争に関する書籍や記録は数多く存在しますが、そのうちの一つを読んでも、彼の貧しい境遇と階級意識が、彼をして深い分析能力と戦略家の視野を備えた戦う人間、人民を尊敬し、心底勇敢な人間、最も恵まれない人々に真っ向から大きな心で向き合う人間に作り上げたことがわかります。

自由な男女のサンディーノ将軍の理念は、ニカラグアの独立、主権、自決の理念を育てました。すなわち、その理念は、祖国と自由を夢見るすべての男女に踏襲されています。

私たちの成果と進歩は、ニカラグア和解国民団結政府の成功と進歩の道筋に向かって、国民大統領の建築家として、またその指導のもとで、ニカラグア国民が私たちに託した主権的決断と信頼の反映以外の何ものでもありません。

.....

本稿は、在日ニカラグア共和国大使館及びキューバ研究室の主催した『アウグスト・セサル・サンディーノ将軍、生誕 127 周年記念オンライン講演会』における基調講演の要旨です。